

TAKE FREE

ZMM+ | vol. 05

北海道教育大学岩見沢校 卒業生へのインタビュー



+ エディトリアルデザイナー

青坂 さつき

AOSAKA SATSUKI

Topics

デザインとの出会い
学ぶ、作る大学時代
デザイナーというお仕事
北教大岩見沢から、その先へ

ZAWA+について

2020年より、新たに始まったi-BOXのシリーズ企画「ZAWA+」。
本展では岩見沢(ZAWA)から飛び立った、卒業生のその後と現在(+)
をご紹介します。岩見沢校が現在の芸術・スポーツを学ぶ大学に
形を変えてから十年以上が経過しました。これまでに岩見沢の地
を巣立った卒業生たちは、社会経験を積みながら近年、活躍の幅
を広げつつあります。教員、会社員、クリエイター... 様々な進路
に進んだ卒業生たちは、今一体何を考え、何を作っているのでしょ
うか? 「ZAWA+」では、社会とかかわりながら、自らの作品を作
り続ける卒業生の皆様をご紹介します。



北海道教育大学岩見沢校入学後は情報デザイン研究室（現…メディアコンテンツ研究室）でデザインやブランディングを学び、卒業後は株式会社クナウパブリッシング（旧ソーゴ印刷株式会社）に入社。現在は「northern style スロウ」の誌面デザインを主に印刷物のデザインなど幅広く手がけている。好きなものはフィルムカメラ、古道具、木彫りの熊。

1992年別海町生まれ。絵を描くのが好きで、幼稚園の卒園アルバムに夢は漫画家と書いていた（漫画はまだ読んでいなかったのに…）。小中学校時代は親の転勤に伴い根室管内での転校が続いていたが、どこも美術系の部活動がなかったため、制作は趣味で続けていた。高校から親元を離れ、登別市にある北海道登別明日中等教育学校に入学。高校時代から美術部に入学し、デザイン系の大学への進学を志すようになる。

青坂 さつき

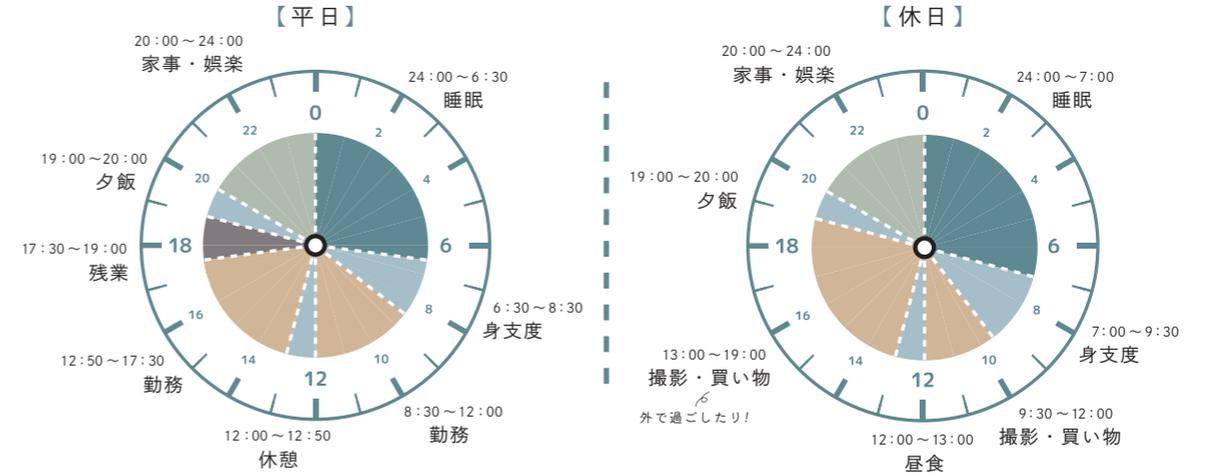
アオ サカ

vol. 05 + エディトリアルデザイナー

アオサカさんってどんな人？

HITOTONARI SPACE

Q.1 | アオサカさんの一日



Q.2 | アオサカさんの5カジョウ

- + 常に笑顔
- + レスポンスはなるべく早く
- + やりたいこと、叶えたいことを口に出す
- + 睡眠時間は必ず確保
- + 自然の中で過ごす時間を作る

Q.3 | 現在のお仕事



1. 北海道の足元の豊かさに光を当てる雑誌「northern style スロウ」の誌面デザインを主に手がけています。
2. 写真が楽しくなるコンテンツを発信する「Photoli」のInstagramのデザインのディレクション、デザイン制作を担当しています。 @photoli_info



※3. 卒業式にて三浦先生と



※2. 研究室の思い出 クリスマス会



※1. 中学生の時に作成した待ち受け画像

人より早め!?な、子ども時代

「子供のころのお話を聞かせてください。」

私が小中学生のころはインターネットのお絵描き掲示板などが流行った時期です。小学生の時はインターネット上の人たちと交流することが好きでした。中学生になるとPhotoshopでロゴデザインや、待ち受け画像(現在でいうロック画面^{※1})、エロを装飾するフリー素材などを作ったりして、自分のサイトに載せて無料配布をしていました。中学生の時にはネット上の交流だけではなく、デザインをすることに夢中になっていました。いっぽうで、雑誌もよく読んでいました。まんが雑誌の「ちゃお」、ファッション雑誌の「Zope」が好きで、その頃から雑誌に携わる仕事に興味を持っていったと思います。高校にあがるタイミングで親元を離れ、登別市にある「北海道登別明日中等教育学校」に通いました。初めての寮生活です。それまでの小中学校時代では美術部がなかったので趣味で絵を描いていたので

すが、高校に入学してやっと美術部に入学しました。

「デザイン制作、交流、自立」全てが人より早い感じがしますね。高校時代のお話も聞かせてください。

高校の美術部では主に人物をモチーフに油彩画を描いていました。当時の顧問の先生に、将来デザイン系の学校に進学したいとお話したところ、「美術予備校に通った方がいい」とアドバイスをいただきました。そこで、高校2年の夏休みに札幌にある美術予備校の夏期講習へ行ったのですが、そのとき初めて挫折を経験しました。周りの人が自分より上手く、大きな差を感じ「自分は美術に向いていないのかもしれない...」と思って、帰宅後は親に電話してわんわん泣きました(笑)。

次の日からは一応持ち直し、なんとか通いきることができました。予備校の先生にご指導いただいて、徐々にデッサンのコツを掴んだため、夢を諦めずに頑張ることができたのだと思います(笑)。高3になってからは毎週土曜日に登別か

ら片道2時間かけて予備校に通っていました。

「最初の志望校は他大学だったとお伺いしています。」

はじめは関東の大学のデザイン学科に行きたくて、推薦入試を狙っていました。ところが試験で忘れ物をしてしまったんです。円をテーマにした課題が出されたのに、コンパスを忘れてしまいました...あの時は血の気が引ききました...案の定というか、入試に落ちてしまい、予備校の先生へ相談したところ、北海道教育大学岩見沢校を教えていただきました。最初は道外へ行く気満々だったのですが、北海道でデザインができるんだ」と知り、岩教を志すことにしました。

学ぶ・作る大学時代

「大学入学後は、情報デザイン研究室(現・メディアコンテンツ研究室)に入ったわけですが、この研究室を選んだ決め手はなんでしたか？」

当時、大学でデザインを学べた研

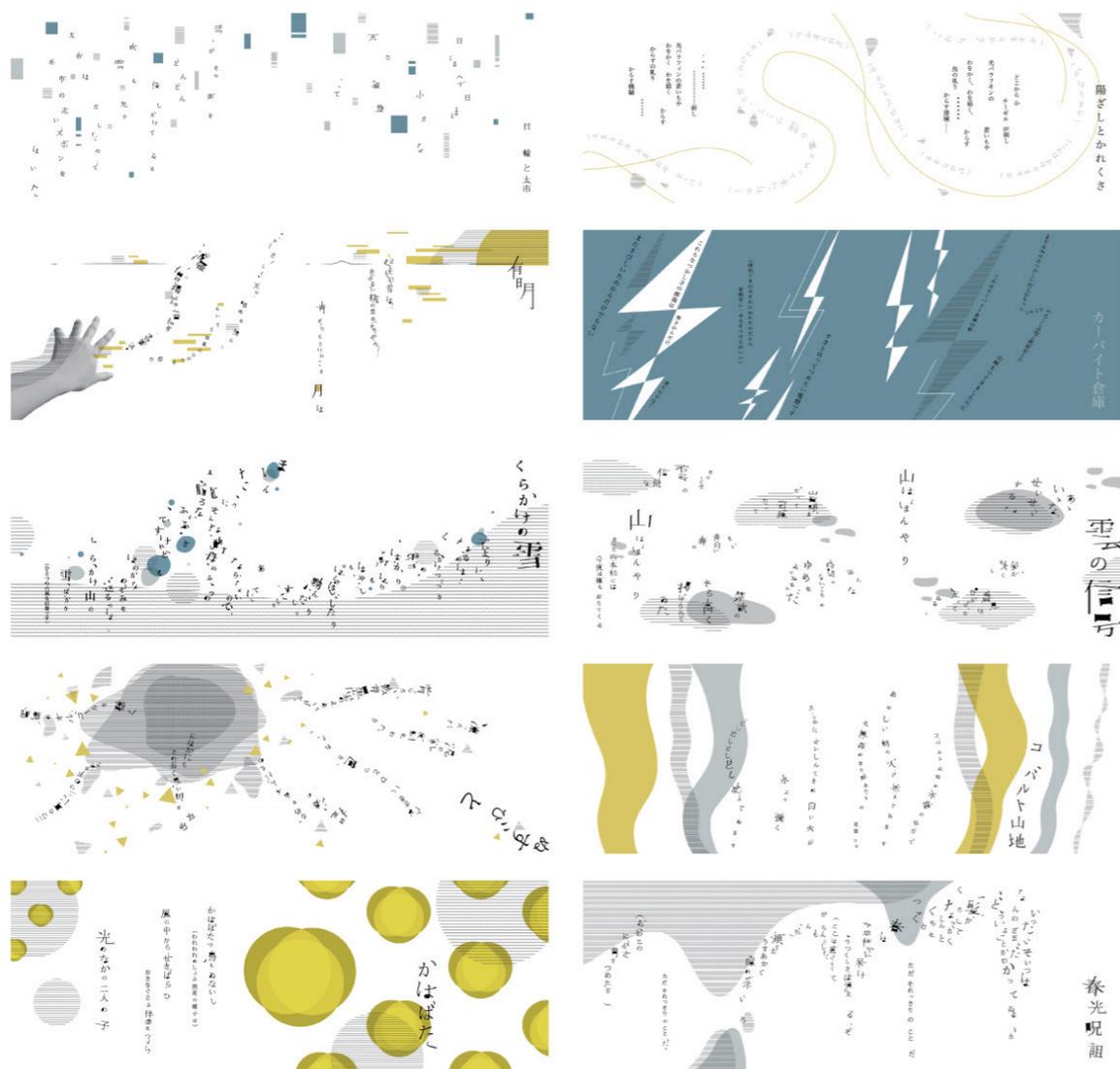
究室は2つあったのですが、自由度が高そうで、自分がやりたいデジタルでの制作にも合いそうだな、と思って情報デザイン研究室^{※2}を選びました。

「研究室での思い出などがあれば教えてください。」

指導教官の三浦啓子先生^{※3}は、「失敗してもいいから、とにかくやってみなよ!」というスタンスで、自分がやりたいことを肯定してくれるんですね。在学中はこの雰囲気のおかげで楽しく制作をできていました。

当時の自分の制作したいものは、「自分らしい強い個性を押し出す」というよりも、「情報を伝わりやすくまとめて、美しく仕上げること」を目指したかったため、三浦先生に背中を押していただけたことはありがたかったなあと思います。

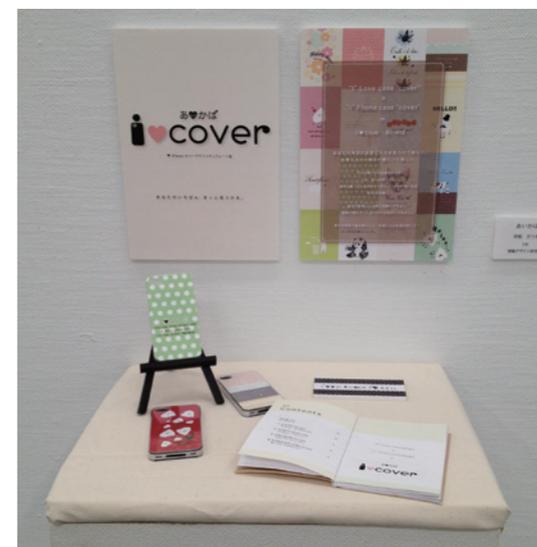
また、情報デザイン研究室にはOB・OGに活躍するデザイナーがたくさんいるので、デザインに関するお話を直接伺えたことは大変貴重な経験でした。その中で講評をいただく機会があったのです



※5-2. 卒業制作「image」



※5-1. 卒業制作「image」



※4. 2年時の作品「あいかば・iPhoneカバーデザインテンプレート集」

が、デザインに対する考え方がとてもストイックで厳しいアドバイスを受けたことがあり、そのときは苦しいと感じてしまいました。今思えば、こんな機会はなかなかないので、もっと積極的に立ち向かえばよかったと後悔しています。

— 在学中はどんな作品を作っていましたか？

主に紙媒体での制作を行っていました。たとえば、大学2年時にはブランディングをして、スマホケースのデザイン^{※4}を展開し、ブランド名を作って展示してみました。また、大学時代は長い期間ローソンでバイトしていたので、制服を着回す8ページくらいの冊子を作ったこともありました。本当は権利の関係でダメかもしれませんが(苦笑)。

卒業制作^{※5}は宮沢賢治の詩集の言葉から受けた印象を可視化(グラフィック化)して一冊の本を作りました。文字やことはから受ける印象は、人それぞれ。宮沢賢治の詩集「春と修羅」の詩から、自分が

受けたイメージ(印象)を、image(画像)に落とし込んだ作品です。

— 制作の傍ら、就職活動は行っていたのでしょうか？

就職活動は大学3年の末頃から始めて、デザイン系や印刷会社を中心に受けました。某コンビニや旭川のフリーペーパー制作の会社など色々受けていましたね。その時は特に理由はありませんが、道外は考えていませんでした。

ところが、就活に本腰を入れるぞ！というタイミングで病気になるってしまい、泣く泣く二次面接を辞退するというトラブルが…。どうしようと焦っていた時に、母が自身で購読していた雑誌の巻末に載っていた社員募集を教えてくださいました。その雑誌が、今私が携わっている「northern style スロウ」です。

二次面接まで進んで本社を訪ねると、とても良い雰囲気、魅力的な仕事や人がたくさんいたことから、この会社に絞りました。

実は高校2年の夏に、札幌で行われていたスロウと北海道おとい



※7. お仕事①「Nikon Z fc カタログ」



※7. お仕事②「drop aoi photobook」



※7. お仕事③「小関裕太 2021-2022 カレンダー」



※6-2. SLOW living



※6-1. SLOW living

「依頼を受ける時に特に気を付けていることはありませんか？」
 クライアントとはメールやSNSなど、文面でやり取りすることがほとんどですが、文章だけではコミュニケーションが難しい部分もあります。そのため、雰囲気や柔らかく感じていただけるよう、ビジュアルマークを使ってみたりして冷たい印象にならないよう気を付けています。あとは、レスポンスを早くして、相手に安心感を持ってもらえるようにしていますね。

「依頼を受ける時に特に気を付けていることはありませんか？」
 えませんが、なにかお仕事を貰うきっかけなどがあったのでしょうか？
 私が大学時代に授業で制作したものを、今の自分の目線で添削し、ビフォーアフターを制作して個人のTwitterに流したところ、とても多くの反響をいただきました。これがきっかけで急激にTwitterのフォロワーが増えた結果、お仕事の依頼が来るようになりました。個人の仕事は全部会社を通しての形になります。依頼を受けるかどうかの判断は自分でしていますね。

「現在のお仕事について教えてください。」
 現在は株式会社クナウパブリッシングに勤務し、「nothern style スロウ」という雑誌のメインデザイナーとして働いています。雑誌のデザインの方向性を決めたり、スロウ関係の印刷物や店舗のブランディングなども行っています。自治体のパンフレット制作などの仕事を行うこともあります。
 あとは、SNSを通じて青坂さつき個人に依頼が来るお仕事の割合も多いです。SNS関係のデザインや冊子系のデザインなどが主でしょうか。

「会社に所属しながら個人で仕事を請け負う：不思議なお話に聞こえますが、SNSを通じて青坂さつき個人に依頼が来るお仕事の割合も多いです。」
 SNS関係のデザインや冊子系のデザインなどが主でしょうか。

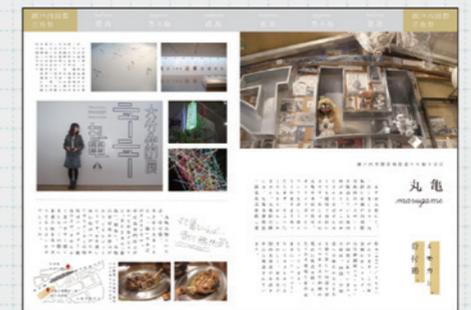
デザイナーというお仕事

「現在のお仕事について教えてください。」
 現在は株式会社クナウパブリッシングに勤務し、「nothern style スロウ」という雑誌のメインデザイナーとして働いています。雑誌のデザインの方向性を決めたり、スロウ関係の印刷物や店舗のブランディングなども行っています。自治体のパンフレット制作などの仕事を行うこともあります。

ねっぶ美術工芸高等学校のコラボイベントにも足を運んでいたんです。その時の会社だったというのは入社してから気が付き、強い縁に導かれていたのだな、と感じます(笑)。

BEFORE

大学3年生 (21歳) の頃



BEFORE

大学3年生 (21歳) の頃



スペースが空いたから入れたような地図。ショップデータを統一して入れた方が良い。

手書き文字が遅くて読みづらい。

文字間隔あげすぎていて読みづらい。文字間より行間を広めに。



【編集担当者コメント】

一気に“プロのデザイン”に。すっごくタメになります...!

AFTER

社会人5年目 (27歳) の頃



※8. Twitter に投稿したデザインの添削画像

あとは、写真撮影の依頼が来ることもあるのですが、写真を仕事にしないと決めているので断っています。趣味が趣味でなくなってしまうのが怖いので...

—就職活動は多くの学生が苦労するところです。たとえば、デザイン事務所の求人は、実務経験3年以上が求められるところが多く、焦る学生の姿も...

確かにデザイン事務所の求人は

実務経験が求められるところが多いですよ。新卒時には印刷会社やインハウスでデザイナーを抱えている企業を受けるのもいいかと思えます。そういう企業で実務経験を積んでから、デザイン事務所へ転職するという道もあると思います。ので焦らなくて大丈夫だと思いますよ。

—ちなみに、青坂さんが一緒に働くとしたら、どんな人と働いてみ

たいと思いますか？

自分に無いものを持っている人が欲しいです！自分はエディトリアルデザイン以外には苦手意識があるので、グラフィックを作れる人や、絵を描けたり、簡素化できる人がいたらもっとデザインの幅も広がるだろうな...と思っています。芸術系の、イラストを描ける人がいいですね。

岩教から、その先へ

「大学で学んだことは、今の仕事にどう活かされていますか。」

情報デザイン研究室の中で行った、考える、企画書を作る、それからプレゼンする...という作業。これらは、自分の思考を説明し、相手とコミュニケーションをとる能力です。

社会に出てから必ず必要になるスキルの基礎を、大学生のうちに学べてよかったと思っています。

「青坂さんが考える、学生のうちにやっておいた方が良いことって何ですか？」

勉強です！(笑)ただし、テストに出るような勉強とは限らないです！私が大学の時に失敗したな、と思っているのは、アルバイト。学生時代はコンビニで働いていたので夜勤もあり、とにかくバイト漬けの日々でした。

好きなことに対する知識を身に付けるために、美術館へ行ったり図書館へ行ったり、もっと自分の

好きな物に触れる時間をたくさん作るべきだったな、と思います。

「今、これから美術を学ぶ人に向けてメッセージをお願いします。」

大学にいる今のうちにたくさんインプットしてほしいです。

今、私も徐々に自分の好みが変わり、叶えたいことが見えてきました。学生のうちから突き詰めれば、もっと早い段階で開花できたのかなと思います。働き始めると勉強をする暇が無いので、あの時々見ておけばよかったと思います。大学生は時間が無い、なんて言いつつも、社会人と比べれば十分時間があるように思います。好きなことを勉強して、突き詰めましょう！

ZAWA+

ロゴについて

卒業したあとどんな仕事をしていても、生活をしていても、大学で学んだことや、大学の仲間たちと過ごした時間は生かされている。どんな経験も、この先の自分につながっていく、という意味を込めて、「ZAWA+」の文字を一筆書きのようにつなげました。また「人生山あり谷あり」というイメージに合わせて、丸みを帯びたデザインにしました。

ZAWA+ vol.05 青坂さつき「汲んで、組む。」

会期：2022年11月4日（金）～11月19日（土）

時間：10：00～12：00、13：00～16：00（※最終日は15時まで）

会場：北海道教育大学岩見沢校 BOX[i-BOX]

岩見沢市有明町南1番地1 JR岩見沢複合駅舎 有明交流プラザ2階
入場無料

企画：北海道教育大学岩見沢校 i-BOX

尾崎芳子 / 煤田真実 / 藤野留朱 / 平松莉奈 / 佐藤夏月



